

北朝鮮の最近の貿易動向

日本貿易振興機構（ジェトロ）海外調査部中国北アジア課 根本 光幸

1. はじめに

北朝鮮は、日本、米国、フランスなどを除くと、世界の162の国々と外交関係を樹立しているが、統計が発表されることは殆どないため、北朝鮮の経済状況については把握しにくい。

例えば、北朝鮮の貿易を把握しようとしても、貿易統計を一切明らかにしていない。そこで、グローバル・トレード・アトラス（GLOBAL TRADE ATLAS、以下GTAという）を用いて、相手国との貿易取引を見ると、北朝鮮は2013年に89カ国・地域との貿易取引関係があり、その取引額は合計で89億5,800万ドルに達している（ジェトロのHP、国・地域別データ（北朝鮮）の「主要国・地域の対北朝鮮輸出入額の推移」参照）。

これを見ると、2013年は、中国が対北朝鮮貿易のおよそ4分の3を占め、韓国も13%近くを占め、両国だけで北朝鮮貿易の9割近くを占めていることがわかる。

以下、2014年の北朝鮮の対中国、対韓国貿易がどのような状況になっているかを見ることとする。

2. 北朝鮮と中国の貿易関係

貿易統計データベースのGTA（元データは中国の海関統計）で、ここ数年間の中朝貿易の推移を見ると、2009年の中国から北朝鮮への輸出額は12億1,000万ドル、北朝鮮から中国への輸入額は5億100万ドルであったのを底に、その後はほぼ順調に推移し、2014年には中国から北朝鮮への輸出額が35億2,300万ドル、北朝鮮から中国への輸入額が28億4,100万ドル、合計で63億6,400万ドルまで拡大してきている（表-1参照）。

表-1 中国の対北朝鮮貿易の推移（2009～2014）

(単位：100万ドル、%)

	輸出		輸入		総額		貿易収支
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額
2009年	1,210	-	501	-	1,711	-	709
2010年	2,278	88.3	1,188	137.1	3,466	102.6	1,090
2011年	3,165	38.9	2,464	107.4	5,629	62.4	701
2012年	3,446	8.9	2,485	0.9	5,931	5.4	961
2013年	3,633	5.4	2,914	17.3	6,547	10.4	719
2014年	3,523	△3.0	2,841	△2.5	6,364	△2.8	682

(出所) GTA（元データは中国海関統計）

＜2014年は中国から北朝鮮への鉱物性燃料の輸出が急減＞

中国から北朝鮮への輸出を品目別（HSコード2桁分類）に見ると、電気機器・同部品、が前年比65.3%増の4億2,000万ドルで最も多く、全体の11.9%を占めている。次いで、原子炉、ボイラー、機械類・同部品が同17.9%増の3億1,000万ドル（シェア8.8%、以下同じ）、鉄道用を除く輸送機器・同部品が同12.2%減の2億1,100万ドル（同6.0%）、プラスチック・同製品が同36.2%増の1億9,300万ドル（同5.5%）、鉱物性燃料が同74.2%減の1億9,100万ドル（同5.4%）の順で続いており、鉱物性燃料の輸出急減が目立つ（表-2参照）。

表-2 中国の対北朝鮮主要品目別輸出の推移（2012～2014）

(単位：100万ドル、%)

順位	HSコード	品目名	2012年		2013年		2014年		
			金額	シェア	金額	シェア	金額	シェア	前年比
1	85	電気機器・同部品	267	7.7	254	7.0	420	11.9	65.3
2	84	原子炉、ボイラー、機械類・同部品	293	8.5	263	7.2	310	8.8	17.9
3	87	輸送機器・同部品（鉄道用を除く）	233	6.8	240	6.6	211	6.0	△12.2
4	39	プラスチック・同製品	131	3.8	142	3.9	193	5.5	36.2
5	27	鉱物性燃料など	790	22.9	741	20.4	191	5.4	△74.2
6	54	人造長繊維（糸、織物含む）	129	3.7	146	4.0	166	4.7	14.2
7	61	衣類・同付属品（編み物）	64	1.9	85	2.3	115	3.3	34.8
8	15	動物性・植物性油脂	71	2.1	86	2.4	113	3.2	30.8
9	72	鉄鋼	82	2.4	92	2.5	109	3.1	17.7
10	55	人造短繊維（糸、織物含む）	86	2.5	98	2.7	96	2.7	△1.8
		小計	2,146	62.3	2,147	59.0	1,924	54.6	△10.4
		総計	3,446	100.0	3,633	100.0	3,523	100.0	△3.0

(注) 対象は2014年のHS2桁ベースの上位10品目

(出所) 表-1に同じ

鉱物性燃料の太宗を占める原油の対北朝鮮輸出を2011年から2013年まで見てみると、数量的には52万トンから58万トンくらいで、金額的には5億ドル強から6億ドル弱で推移していたが、2014年については、中国から北朝鮮への原油の輸出はゼロとなっている。原油の輸出実績が2014年にはないことについて、韓国のマスコミでは、中国側が核開発停止の確約や北朝鮮の核問題を巡る6カ国協議への北朝鮮の復帰を輸出再開の条件としているとの報道も見られる。

一方、北朝鮮からは、中国からの原油の輸出が止まったことで、国民の生活に大きな支障をきたしているとの情報も伝わって来ていないために、貿易統計には現れていないが、中国から北朝鮮に原油が供給されているのではないかと、この見方もある。

<北朝鮮からの鉱物性燃料の輸入も急減>

次に中国の北朝鮮からの品目別輸入を見ると、石炭を中心とする鉱物性燃料が前年比17.5%減の11億4,600万ドルだったものの、全体の40.3%を占めた。次いで編み物を除く衣類・同付属品が同24.6%増の6億2,200万ドル（シェア21.9%、以下同じ）、以下、鉱石、スラグおよび灰が同18.3%減の3億3,900万ドル（同11.9%）、魚、甲殻類が同23.1%増の1億4,300万ドル（同5.0%）、編み物の衣類・同付属品が同35.5%増の1億1,900万ドル（同4.2%）で食用ナッツ、かんきつ類が前年の3.4倍の1億1,100万ドル（同3.9%）と急増した（表-3参照）。

表-3 中国の対北朝鮮主要品目別輸入の推移(2012~2014)

(単位: 100万ドル、%)

順位	HSコード	品目名	2012年		2013年		2014年	
			金額	シェア	金額	シェア	金額	シェア 前年比
1	27	鉱物性燃料など	1,206	48.5	1,390	47.7	1,146	40.3 △17.5
2	62	衣類・同付属品(編み物を除く)	373	15.0	499	17.1	622	21.9 24.6
3	26	鉱石、スラグおよび灰	358	14.4	415	14.3	339	11.9 △18.3
4	03	魚・甲殻類	101	4.1	116	4.0	143	5.0 23.1
5	61	衣類・同付属品(編み物)	67	2.7	88	3.0	119	4.2 35.5
6	08	食用ナッツ、かんきつ類	19	0.8	32	1.1	111	3.9 243.3
7	72	鉄鋼	125	5.0	95	3.3	90	3.2 △5.5
8	85	電気機器・同部品	43	1.8	42	1.4	56	2.0 32.4
9	25	塩・硫酸、土石・セメント類	38	1.5	37	1.3	41	1.5 12.9
10	79	亜鉛・同製品	40	1.6	51	1.8	38	1.4 △25.3
		小計	2,270	95.4	2,765	95.0	2,705	95.3 △2.2
		総計	2,485	100.0	2,914	100.0	2,841	100.0 △2.5

(注) 対象は2014年のHS2桁ベースの上位10品目
(出所) 表-1に同じ

中国の北朝鮮からの品目別輸入で特徴的なことは、鉱物性燃料や鉱石、スラグおよび灰、などの、いわゆる鉱物資源の輸入が減少していることである。主要鉱物の輸入について、2014年全体の金額ベースの対前年比を見てみると、石炭は26.9%減、鉄鉱石は9.9%減、銅鉱石は9.1%増、鉛鉱石は0.9%増であったが、それぞれの品目の北朝鮮からの輸入は、石炭が17.5%減、鉄鉱石が25.7%減、銅鉱石が53.2%増、鉛鉱石が5.1%減で、全体輸入とほぼ同じ傾向が出ている。従って、北朝鮮からの鉱物の輸入減少は政治的要因よりも、中国の景気減速の影響が強いように思われる。ただひとついえることは、品目ごとの輸入全体の単価と比較して、北朝鮮からの輸入単価は総じて安く、石炭の場合、2014年の全体の輸入平均単価がトン当たり83ドルほどなのに、北朝鮮からの輸入単価は78ドルにとどまっている。

また、編み物を除く衣類・同付属品の輸入が増えているのは、中国から北朝鮮への委託加工が活発化しているためと見る事が出来る。

3. 北朝鮮と韓国の貿易関係（南北交易）

<2010年以降は、開城工業団地関連の搬出・搬入が大部分>

北朝鮮と韓国との貿易は、国家間の取引ではなく、民族間の取引であるとの位置づけから韓国では取引全体を南北貿易とは呼ばずに、「南北交易」と呼んでおり、韓国から北朝鮮への輸出は「搬出」、北朝鮮から韓国への輸入を「搬入」と呼んで、通常の貿易とは区別し、1989年から韓国政府が公表している。公表2年目の1990年の実績は搬入が1,227万ドル、搬出が118万ドルに過ぎなかった。これが年とともに拡大し、2005年に搬出額と搬入額の合計が10億ドルを超えるまでになった（表-4参照）。

その後、2010年3月に発生した韓国海軍の哨戒艦「天安号」沈没事件を受けて、韓国政府が2010年に実施した「5.24措置」により、開城工業団地以外の南北間経済交流が原則として禁止された。それにもかかわらず、2012年には南北交易の合計

表-4 南北交易の推移

(単位: 1,000ドル、%)

年	搬入		搬出		合 計		交易収支 (搬出-搬入)
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	
1990	12,278	-	1,188	-	13,466	-	△11,090
1995	222,855	-	64,436	-	287,291	-	△158,419
2000	152,373	-	272,775	-	425,148	-	120,402
2005	340,281	-	715,472	-	1,055,754	-	375,191
2010	1,043,928	-	868,321	-	1,912,249	-	△175,607
2011	913,663	△12.5	800,192	△7.8	1,713,855	△10.4	△113,471
2012	1,073,952	17.5	897,153	12.1	1,971,105	15.0	△176,799
2013	615,243	△42.7	520,603	△42.0	1,135,846	△42.4	△94,640
2014	1,206,202	96.1	1,136,437	118.3	2,342,639	106.2	△69,765

(出所) 韓国 統一部

額は19億7,100万ドルに達した。

しかし、2013年は搬出が前年比42.0%減の5億2,060万ドル、搬入が同42.7%減の6億1,524万ドル、合計で同42.4%減の11億3,585万ドルといずれも前年比4割以上の大幅な減少を見せた。これは、南北交易の大部分を占める開城工業団地での企業活動が、北朝鮮側が同団地内で働く労働者を一方的に引き揚げたことで、2013年4月3日から9月15日までの5カ月半ほど中断したことによる。

韓国統一部が2015年に発行した月刊「南北交流動向」2014年12月号で、2014年の南北交易状況を公表している。それによると、北朝鮮からの搬入は前年比96.1%増の12億620万ドル、搬出は同2.18倍の11億3,644万ドルで、搬出入合計額は23億4,264万ドルと、初めて20億ドルの大台を突破し、過去最高を記録した。

これは、2014年の開城工業団地での生産活動が軌道にのり、北朝鮮側従業員も2013年より増えたことで、韓国からの資本財や原材料の搬出が増え、その結果として、北朝鮮で生産された製品の搬入が増えるという相乗効果をもたらしたことに起因する。

<搬入は鉱産物を除いて、多くの品目が倍近い伸び>

搬入が最も多かったのは繊維類で、前年比89.0%増の4億7,595万ドル、次いで電子電気機器の同2.12倍の4億5,391万ドル、3番目が生活用品で、同94.5%増の1億1,065万ドル、機械類の同88.8%増の8,267万ドル、化学工業製品の同

56.3%増の3,887万ドルと続いている(表-5参照)。

表-5 南北交易 品目別搬出入(2012~2014年)

(単位: 1,000ドル、%)

区分	品目	2012年	2013年	2014年	
		金額	金額	金額	前年比増減率
搬入	農林水産物	7,184	3,798	6,260	64.8
	鉱産物	5	101	15	△84.8
	化学工業製品	38,915	24,867	38,873	56.3
	プラスチック、ゴム、革製品	24,147	13,803	26,954	95.3
	繊維類	459,304	251,761	475,954	89.0
	生活用品	93,076	56,883	110,646	94.5
	鉄鋼金属製品	9,502	5,329	9,847	84.8
	機械類	67,354	43,790	82,669	88.8
	電子電気機器	373,507	213,942	453,907	112.2
	雑製品	958	968	1,077	11.2
	小計	1,073,952	615,243	1,206,202	96.1
搬出	農林水産物	31,419	17,036	31,797	86.6
	鉱産物	36,696	23,951	39,087	63.2
	化学工業製品	65,807	39,563	65,915	66.6
	プラスチック、ゴム、革製品	23,598	14,826	24,079	62.4
	繊維類	318,357	187,648	352,593	87.9
	生活用品	56,466	37,881	88,349	133.2
	鉄鋼金属製品	23,311	11,685	21,802	86.6
	機械類	72,118	44,569	84,070	88.6
	電子電気機器	268,447	143,254	428,562	199.2
	雑製品	934	189	182	△3.6
	小計	897,153	520,603	1,136,437	118.3
合 計		1,971,105	1,135,846	2,342,639	106.2

(出所) 韓国 統一部

<搬出も雑製品以外は大きな伸び>

搬出も搬入と同様な傾向が顕著に出た。電子電気機器が前年の1億4,325万ドルから4億2,856万ドルと3倍近い伸びを見せた。次いで繊維類は前年比87.9%増の3億5,259万ドル、生活用品が同2.33倍の8,835万ドル、機械類が同88.6%増の8,407万ドル、化学工業製品が同66.6%増の6,592万ドル、鉱産物が同63.2%増の3,909万ドルの順で続いている。

繊維類の搬出が多いのは、開城工業団地の入居企業の6割弱を繊維企業が占めることによるものと思われる。

なお、統一部の資料では、搬出入合計額の23億4,264万ドルのうち、商業的取引は99.8%の23億3,833万ドルで、これらの全てが開城工業団地に関係するものとしている。また非商業的取引は

414万ドルで、内訳は民間支援が368万ドル、社会文化協力が46万ドルとなっている。

4. おわりに

以上見てきたとおり、出所の違いはあるものの、GTAによる2014年の中朝貿易は往復で63億6,400万ドル、また、韓国統一部発表の2014年の南北交易は23億4,300万ドルで、合計では87億ドルを超えている。

一方、韓国の大韓貿易投資振興公社（KOTRA）は2015年6月5日に発表した「2014年の北朝鮮の貿易動向」の中で、中国以外の主要貿易相手国として、ロシア、インド、タイ、バングラデシュなどを挙げており、これらの国々の北朝鮮との貿易（輸出入）は5,000万ドルから9,000万ドルを超える規模になっているので、北朝鮮の対外貿易規模は90億ドル強と見ることが出来る。

北朝鮮の貿易の特徴を挙げると、まず第1に、「はじめに」でも述べたとおり、北朝鮮は自国の貿易統計を一切明らかにしていないものの、取引相手国から収集したデータから言えることは、北朝鮮の貿易において、中国と韓国の比率が極めて高いことだ。

第2には、北朝鮮から中国への主な輸出品目の中では、鉱物資源が太宗を占め、これに続くのは、委託加工による繊維製品や水産物、食用ナッツ・かんきつ類などの品目で、鉄鋼や電気機器など、いわゆる重工業製品は主要輸出10品目の中では下位にランクされていることだ。

こうした重工業製品の競争力を高め、輸出拡大を図ってゆくことが北朝鮮にとって重要な課題であり、北朝鮮自身も毎年春と秋に開催している平壤国際貿易商品展や羅先国際商品展示会に外国企業の出展や視察を積極的に勧誘しているし、中国東北部の各省で開催される貿易投資博覧会に北朝鮮企業が参加するなど努力を重ねてきている。

北朝鮮が以前行った核実験やミサイル発射実験に伴う国連制裁が続く中で、貿易拡大を図ってゆくことは容易なことではないが、鉱産物や水産物だけでなく、付加価値の高い輸出商品を開発して

ゆくことが喫緊の課題になっている。加えて、中国への貿易依存度が今後も徐々に高まるのか、あるいは市場の多角化が功を奏し、中国への依存度が徐々に低下してゆくのかも注目していく必要がある。

（おわり）